

公民館運動の父

鈴木健次郎 その晩年

3

を取るんだよ。同じ会議に出席すると、帰りは自宅まで送ってくれるのにも参ってしまふよ」とこぼしている。小畑が鈴木にかけると、いやは並ならぬものがあったよ。

同じく参与だった田口清克にとって一番印象的だったのは、青少年育成のため行政としては何をすべきかを、鈴木が三点に絞って論理的に説明したことだ。第一は地域の実態を把握すること、第二は実践事例を紹介

する。第三はモデル町村を設置すること。この提案はそのまま実行されていった。これは、鈴木が若いころ所属していた日本青年館での事業の展開方法であり、日本の公民館普及の方式だった。押し付けではなく、机上のプランでもなく、現場に学び、地域の実情に即した、生きた事例をモデルに、青少年育成を普及していった。この提案は、

当時の県連合青年会は、自ら運営する会館の建設を長年の願いとしていた。五〇年代の二度の挫折を経て、六五年に会館建設の声が上がった。全県で募金活動を展開し、六九年に建設の資金的なめどが立った。会館を運営するための財団法人の設立準備も始まり、同年十二月、鈴木は推されて県青年会館の初代理事長

一九六六(昭和四十一)年五月、秋田高校の校長を務めていた鈴木健次郎は、県高校校長会の会長として、同年発足した県青少年

対策室の参与に委嘱された。同室の運営が行政主導に陥らないよう、民間の意見を反映させることを狙い

に就く。理事長には青年の象徴として内外から信頼される人物をと、日本の公民

昨年十月の東北地区公民館大会で講演する予定だった元県青年会館事務局長の故田口清亮さんの草稿を基に再構成しました。

生きた事例モデルに

青少年育成 「公民館式」の普及提言

鈴木は無駄な発言はしなかった。自分の意見はきつちりとノートに書き込み、一言一言が心に染みる発言だったから、小畑もよくメモを取った。鈴木はある時、県新生活運動推進協議会の職員に、「僕、本当に困るんだよなあ。知事さんにお会いするといきなり、メモ

を、鈴木が三点に絞って論理的に説明したことだ。第一は地域の実態を把握すること、第二は実践事例を紹介

する。第三はモデル町村を設置すること。この提案は、そのまま実行されていった。これは、鈴木が若いころ所属していた日本青年館での事業の展開方法であり、日本の公民館普及の方式だった。押し付けではなく、机上のプランでもなく、現場に学び、地域の実情に即した、生きた事例をモデルに、青少年育成を普及していった。この提案は、

当時の県連合青年会は、自ら運営する会館の建設を長年の願いとしていた。五〇年代の二度の挫折を経て、六五年に会館建設の声が上がった。全県で募金活動を展開し、六九年に建設の資金的なめどが立った。会館を運営するための財団法人の設立準備も始まり、同年十二月、鈴木は推されて県青年会館の初代理事長



鈴木が建設に情熱を傾けた旧県青年会館

いるものに触れ、近づこうと努力し、少しでも彼らを理解したい」「お互いに知り合う努力と、それを認め